

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	運動による健康づくり事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	保健福祉部	課等名	保健課		包含する細々目	1	4	1	3	11	3	2,190
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり											
施策	31 心と体の健康づくり											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		不要						
		事業期間	15	年度～	年度							
						関連計画条例等						健康いいだ21

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	40歳以上の市民(=介護保険対象者)	40歳以上の人口 人	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする	
			63471			
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
目的の記述	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	・自分に適した運動を実践継続する市民が増加する。 ・身体能力の維持向上を図る ・バランス能力の向上や筋力アップを図り、転倒を予防する。	運動習慣者の率(30分以上の運動を週2回以上) 男・女%	18目標	20・25	最終目標	
			18実績	24.5、16.9	19目標	↑
	教室に参加し効果があったと感じた人の割合%		23目標		23実績	最終目標達成年度
			18目標	95	最終目標	
			18実績	98	19目標	↑
		23目標		23実績	最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	健康いいだ21推進事業として、生活習慣病予防や健康寿命の延伸を目的に、年代に応じた筋力・バランス能力等をアップするための運動教室を開催する。事業の効果判定と、運動の実技指導を名古屋市立大学に委託する。	18年度の実績 ・ウェルビクス教室、健脚大学、運動実践講座(ウォーキング講座・男性の筋力アップ講座)の新規教室開催。 ・15～17年度実施した上記の各運動教室のフォロー・教室を実施する。 ・ウォーキングを中心とした健康教室「さわやか教室」の継続	ウェルビクス教室数 健脚大学教室数 運動実践講座 教室数 さわやか教室数	新規4・継続10 新規1・継続4 新規2・継続4 18
	19年度計画	・ウェルビクス教室、健脚大学、運動実践講座(ウォーキング講座・男性の筋力アップ講座)の新規教室開催。 ・15～18年度実施した上記の各運動教室のフォロー・教室を実施する。 ・ウォーキングを中心とした健康教室「さわやか教室」の継続 (ウェルビクス教室と健脚大学は、名古屋市立大学に委託した5年間の事業のため新規の教室開催は19年度で終了する。)	ウェルビクス教室数 健脚大学教室数 運動実践講座 教室数 さわやか教室数	新規3・継続14 新規1・継続5 新規2・継続4 18

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金	619	257
	県支出金	619	321
	起債		
	その他		
一般財源	1,099	1,612	
事業費計(A)	2,337	2,190	
人件費	正規職員所要時間	18年度 2,500	19年度 3,050
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	8,940	10,907
	トータルコストA+B	11,277	13,097

特定財源内訳や補足事項  
17年度は運動実践講座を国保予算で実施、18年度については健脚大学と運動実践講座を国保予算で実施 17年度国保予算738千円決算570千円 18年度国保予算額は1911千円

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	市民が心身ともに健康を保つ	心身ともに健康であると感じている市民の割合%	現状値	62.8	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	63
	一人当たりの国保医療費	一人当たりの国保医療費	現状値	358347	19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	365000	

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
15年度介護保険新規申請者の原因疾患は、骨折や筋力低下など筋骨格系疾患が第1位を占めている。市民が気軽にできる運動を普及し、筋骨格系の機能を維持向上させて、介護予防につなげるため事業を開始した。	介護予防の利用者は増加している。とくに軽度の要介護認定者の伸びは著しい。18年度より介護保険制度の改正により、介護予防地域支え合い事業は廃止されるため、ウェルビクス教室と健脚大学は、単事業となった。	・17年度ウェルビクス教室受講者に実施したアンケート調査では、主観的効果ありが84.8%であった。 ・教室への市民の受講申し込みが多く効果が期待されている。

## 【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)	(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

## 【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	運動指導できるリ-ダ-育成のための研修会の開催と、教室参加者の交流会をおこない、運動継続の意識づけとより多くの市民の参加を図る。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	合併した2地区への事業展開方法

### 【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

### 【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	